

同和問題

人権講座⑩
市民意識調査から

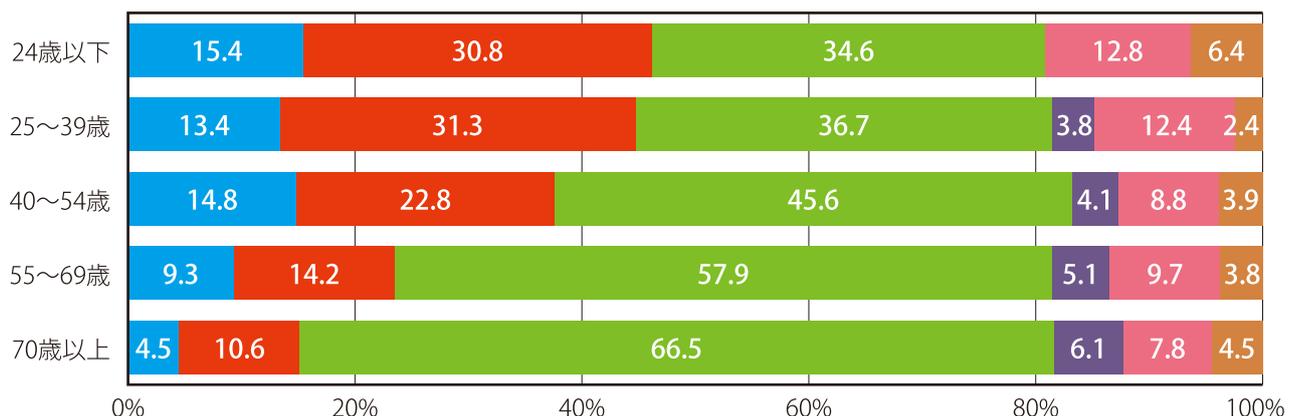


21世紀は人権の世紀といわれるように、全世界でさまざまな人権問題の解決に向けた取組みが進められています。人種差別や女性・子ども・障がい者・高齢者・ハンセン病患者などへの人権侵害を許さないよう国際条約でも打ち出されています。また、国連からは、日本固有の人権課題である同和問題についても解決を図るように求められています。

同和問題とは、日本の歴史の過程で形づくられた身分差別により、一部の人が長い間社会の中で差別を受け続け、今なお存在している課題のことです。しかし、私たち自身の手によって差別をなくすという意識をだれもが持てば、この不合理な差別はなくしていきけるのではないのでしょうか。

小郡市民は同和問題(部落差別)について自分とどう関係があるかとらえているのでしょうか。2012年11月に実施した「小郡市人権・同和問題市民意識調査」回答結果から見てみます。

Q 同和問題(部落問題)の解決と自分との関係についてどう思いますか?



- 自分にも関係があると思うので、差別をなくす努力をする
- 自分にも関係があると思うので、差別しないようにする
- 自分には関係ないが、差別しないようにする
- 自分には関係がないので、何もしない
- 分からない
- 無回答

同和問題や差別を自分のこととして考える

若い年代の人が、同和問題を自分との関わりでとらえ、部落差別をしてはならないと考える傾向にあることがわかります。特に「24歳以下」の回答者は、「自分には関係がないので、何もしない」を一人も選んでいませんでした。学校教育の中で正しく人権学習を積み重ねることで、差別を自分のこととして考えるようになっていくのが必要です。

差別をなくすことへの第一歩それは無関心にならないこと

みんなが差別をなくすことに無関心であれば、差別がひどくなり、安心して過ごすことができない社会になってしまいます。目に見える同和地区(被差別部落)というものはありません。あるのは差別の意識です。それは人がつくったものですから、人の力によってなくせると思います。まずは、関心をもち、人権学習会などに参加して、差別のない社会をつくる一人になりませんか。

● 問合せ先 人権・同和教育課 ☎72-2111内線532